

長崎ピエール・ロチ協会

長崎ピエール・ロチ協会は1949年2月に発起人会が結成(発起人は長崎市長・大橋博以下5名)。在長崎フランス代理領事アンドレ・ブクリは、在東京フランス国大使、在神戸フランス国総領事も緊密に連絡を取り、双方から協力を得るなど協会設立を積極的に支援した。

8月28日に発会式を迎えた長崎ピエール・ロチ協会は会長を長崎市長とし、事務所を長崎博物館内に置いた。登録会員は100名近くに達した。

当時の事務書類によると協会の事業として、ロチの研究と発表、ロチの遺跡の顕彰保存、日仏文化の交流等が記されている。とりわけ初期の活動としてピエール・ロチ記念碑の製作に重点的に取り組んでおり、1950年6月6日には諏訪公園(現:長崎公園)でピエール・ロチ記念碑除幕式が行われた。一連の事業実施に、ブクリ代理領事の貢献は大きかった。

長崎ピエール・ロチ協会は1957年に長崎日仏協会と改称、日仏協会は2021年には64年目を迎え、日仏友好のさらなる発展を目指して活動を続けている。



長崎ピエール・ロチ協会発足時のブクリ代理領事からの寄稿文
長崎日仏協会蔵



↑ピエール・ロチ協会事務書類
長崎日仏協会蔵



↑長崎ピエール・ロチ協会発足を報じた『長崎日日新聞』の記事
長崎日仏協会蔵